

『能楽研究』発刊の辞

著者	野上記念法政大学 能楽研究所
雑誌名	能楽研究 : 能楽研究所紀要
巻	1
ページ	1-2
発行年	1974-10-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020242

『能楽研究』発刊の辞

野上 法政大学能楽研究所は、もと法政大学総長野上豊一郎博士の功績を記念するため、博士が文学部内に設けた能楽研究室を拡充独立させる形で、昭和27年4月に発足した。当初は総長直属の機関であったが、昭和30年に文学部付置に改められ、また昭和46年12月に大学院校舎から麻布校舎に移転して、現在に至っている。

発足からの二十年間は、書物を主体とする研究資料の充実や、諸家所蔵の能楽資料の調査と写真による収集等に主として努力し、いわば基礎固めの段階であったが、この間、昭和29年に『蔵書目録付解題』を発行し、昭和38年に中世文学会と共催した「世阿弥生誕六百年記念展覧会」の目録を発行した程度で、定期の刊行物を持たなかった。研究所としての事業の報告や所員の業績発表の上からも不便であり、かつ怠慢のそしりをまぬがれないことであったが、人的構成や経費面の制約などから、容易に実現しなかったのである。

昭和47年に設立二十周年を迎えて、第二期に入った能楽研究所のありかたを討議し、能界・学界への寄与を一そう強めるとの基本方針のもとに、「能楽資料集成」の刊行、「観世宗家所蔵文書目録」作成の二つの新規事業と並んで、年一回の紀要発行を決定した。しかし、他の二つの仕事に予想を越える労力を要したことなどのため、紀要の仕事のみが遅延し、このたびようやく、『能楽研究』と題して第一号を発行することになったものである。

『能楽研究』は、野上 法政大学能楽研究所の紀要であり、収集資料の紹介など研究所自体の事業の報告と、所員の研究成果の発表との二つを主目的とする。それと同時に、トップクラスの研究者の寄稿をも仰いで一その内容充実をはかり、

研究所の目で年間の能界・学界の動向を概観した展望をも加えて幅を広げ、『能楽研究』の名に恥じない内容を維持し続けた。年一回発行の微々たる小冊子に似合わしからぬ抱負であるが、その実現に所員一同結集して努力する覚悟である。大方の御支援と御鞭撻をお願い申し上げる。

昭和49年10月